

語り部だより

授業風景

龍王神社への

フィールドワーク

8月3日は、龍王神社 総代の左留間豊幸さんより、龍王神社を案内していただきました。



神社の歴史を説明される左留間さん

龍王神社の神様は、海上安全や漁業を守ってくださり、また雨乞いの神様であること。アコウの樹は、推定樹齢350年前後であり、県指定の文化財であること。アコウの樹は「絞め殺しの木」

とも言われ、樹上で発芽したアコウは、元の木に気根を絡みつけ、絞殺されているように見えるからと説明を受けました。

1期生のジュニア2名を除いた5名は、初めての拝観であり、熱心に説明を聞いていました。

報告 三尾

工野儀兵衛

ものがたりを読む

8月9日の授業では、絵本「工野儀兵衛物語」をみんなで読みました。

カナダ移民の父と呼ばれる工野儀兵衛の波瀾万丈の人生が、語り部ジュニアプロジェクトのリーダー柳本文弥先生の文章と、三尾在住の画家えんどうひとみさんの絵で綴られたオリジナルな絵本です。英語版もあります。

報告 出石

発行

NPO法人
日ノ岬・アメリカ村
語り部部会
Let's KATARIBE
〒644-0045
美浜町三尾778
旧三尾小学校内
TEL: 0738-20-9015
URL: americamura.wakayama.jp



岬下にある鏡岩 (屈岩)

船上ツアー

8月23日のフィールドワークは、三尾を海上からみる「船上ツアー」を行いました。

この日は、松永渡船さんをお願いをし、陸上から行くことが困難な場所を船で回っていただきました。

「うしろその穴」（美穂の岩屋とも）は、万葉集に詠われているほどです。海上からの眺めも素晴らしい、万葉の時代に思いを馳せながら眺めました。日ノ御崎の先では、火災をおこしている日本の船を発見し、その乗組員を助けようとして、殉難

中村紗和 (中学3年生)

私は美浜町に住んでいながら、三尾のことを全く知りませんでした。そして、英語が好きなので、三尾のことを英語で伝えたいと思い、語り部ジュニアに入りました。これから、頑張っていきます。

語り部ジュニア自己紹介

栗林愛結 (大学2年生)

私は高校2年生の時に、総合的な学習の時間に三尾からの移民について学習したことをきっかけに、語り部ジュニアに入りました。和歌山県移民史や美浜町史などのたくさんの本を読んで、移民についての理解を深めました。学習を終えた私は「さらに移民や三尾のことについて知りたい。学習したことを活かしたい」と思いました。そんな時に、語り部ジュニアの存在を知り、語り部ジュニアに入ることを決めました。よろしくお祈りします。

スタン先生ファミリー

交流授業

甲南大学のスタンカーク先生が、授業に参加してくれました。スタン先生はカナダのカルガリー出身で、戦後日本に帰国した日系カ



みんなで記念撮影 (9/6)

ナダ人の調査をしています。スタン先生が考えてきてくれたカナダクイズは思いの外難問揃い。しかも全て英語なのでジュニアたちは悪戦苦闘。そのあと英語で質問をしたりもして、耳、口、頭をフル回転させた2時間でした。

語り部の教室にはこんな風にゲストティーチャーも来てくれます。こんな経験ができるのも語り部の授業ならではの楽しみです。

報告 出石



講師自己紹介

語り部講師の出石美佐と申します。

私はこのプロジェクトへの参加がきっかけで、三尾の歴史を深く知ることになりました。

直感的に、この歴史はもっと広く知ってもらい、後世に残すべきだと感じました。

移民の歴史には、今を生きる私たちが未来をどう生きるかを考えるヒントがたくさんあると思うからです。若い世代にこそ知って欲しい、そんな想いで三尾に通っています。

三尾の方々に色々教えて頂きながら、ジュニアたちは楽しく熱心に学んでいます。温かい目で見守って頂ければ嬉しいです。

今後ともよろしくお願ひします。

「中津フデ展」見学
9月6日は、カナダミニシアムの中津フデ展（12月28日）を見学しました。立案から準備・製作・監修までした岩永淳志さんに解説をしてもらいました。曰く、中津フデさんは三尾の看板婆さんで、誰と話しても必ず話題にのぼるくらい有名な方だったそうです。そしてフデさんの人生には移民の歴史が凝縮されているとも。是非一度ミニシアムに足を運んでみて下さい。
報告 出石

アメリカ村資料館見学（旧日ノ岬パーク内）
9月27日、アメリカ村資料館は現在閉館中ですが、今回特別に見学させていただきました。ここにはたくさん貴重な資料が展示されています。これまで教科書等から得た知識はありましたが、実物に接することで、よりリアルに感じられました。例えば、互いの写真を見るだけで結婚を決める「写真婚」や日系人の強制収容について、実際の写真を見ることで、



パネルを興味深く眺めるメンバー

現実に起きた出来事としてとらえることができました。また当時使用された衣服や、のこぎりなどの生活道具の展示からは、現代との相違点はわかり、共通点があることも知り、大変有意義な時間となりました。
報告 向井



岩永淳志さん（東京大学在学）が、研究のために三尾で一年間を過ごされ、9月24日に帰京されました。

語り部の授業にも顔を出され、ジュニアたちには優しく接し、アドバイスなどを戴きました。ありがとうございました。

これからの御活躍を楽しみにしています。

語り部ジュニア講師一同

三尾の自慢・見どころ紹介 三穂の岩屋（うしろその穴）

はだすすき
久米の若子が
いましける
三穂の岩屋は
見れど飽かぬかも

この歌は、万葉集に出てくる紀伊国を旅した博通法師という方が詠まれた歌です。この「美穂の岩屋」は、地元では「うしろその穴」と呼ばれています。

ここに登場する「久米の若子（わくご）」については、古事記や日本書紀にでてくる大伴氏とならぶ古代氏族「久米氏」の若者とする説や、第23代天皇の顕宗天皇という説などありますが、定かではありません。

岩屋へ行くには、数か所の道がありましたが、私有地であり通れないことや、以前漁師が通っていた道も今は荒れてしまい危険です。しかし、はるか昔の時代より、この三尾の地に魅せられ、旅をした人々がいたことを想像すると、ロマンを感じさせられます。



船上より、美穂の岩屋を望む

編集後記

「語り部だより」を2ヶ月毎にするか、3ヶ月毎にするかと思案しました。しかし、報告したいことがたくさんあり、2ヶ月毎に発行することになりました。ジュニアたちには、まず三尾のことをよく知ってもらいたいと思います。また、三尾の人たちには、私たちの取り組みを知ってもらいたいと思います。三尾